

高校通学区域の見直しについて

県立高等学校教育問題検討委員会の報告（通学区域について）

概要

高知県のすべての生徒たちが、それぞれの興味・関心、適性・進路希望に応じた高等学校を選択できるようにすることで、よりよい教育環境とより効果的な高等学校教育が提供されるよう、通学区域の設定について、撤廃することや学区外の定員割合を高くすることなどの見直しをすべきである。通学区域を撤廃した場合のメリットとデメリットについては、次のような意見が出された。

メリット

- 居住する地域による学校選択の制限がなくなるため、中学生の高等学校進学に際しての選択肢が増える。
- 中学生が「行きたい学校」への合格をめざして努力するようになる。
- 目的意識を持って高等学校に進学する生徒が増える。
- 入学者確保のために、高等学校の特色づくりが進み、魅力化が図れる。

デメリット

- 高知市内の高等学校への志願者が増加することが予想されるため、高知市周辺の高等学校に影響が出てくる可能性がある。
- 遠距離通学等の生徒が増えることも予想され、保護者の経済的負担が増すことが考えられる。

改善の方向性

通学区域については、真に中学生が「行きたい学校」を主体的に選択できるよう、撤廃することが望ましいとの考えが、本検討委員会の議論の大勢であった。しかし、中学生をはじめ中学校や高等学校、地域にも少なからず影響を与えると予想される。したがって、通学区域の撤廃に際しては、デメリットをできる限り補完しつつ、段階的に進める方法をとることも考えられる。

通学区域の見直しについて

中学生

学ぶ力を育み心に寄りそう緊急プラン（H20～23）

○物理的な学区の制限を外すことで、中学生にとって選択肢が増え、可能性が広がる。それは学びの姿勢にもつながり、学力向上のへおアプローチになる。

基礎学力の定着・向上
安心して学べる環境の整備

選抜制度からのアプローチ

学ぶ可能性を広げ、選択肢を増やすこと

努力しようという姿勢
高校を知ろうという態度
自分の進路を考える姿勢

中学生が自分の興味、関心、能力、
適性、進路希望に応じた高校の選択

適度な競争

選抜制度の変更＋通学区域の撤廃

よりよい教育環境
より効果的な高校教育

進路希望の実現

より広い世界を
求める生徒

地域で育つ
生徒

地域の高校への支援
特色づくり

選択の自由

地域で責任をもった
子どもの育成

学区外への通学

通学の支援、十分な周知

制度
奨学金
授業料減免

○通学支援は物理的なもので
対処可能である。

安心して通学できる環境づくり

通学区域の見直しについて

高等学校課

